

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371400959		
法人名	有限会社サン		
事業所名	グループホームよろこび 1F		
所在地	愛知県名古屋市長区桶狭間北三丁目902番地		
自己評価作成日	平成30年10月23日	評価結果市町村受理日	平成31年3月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2371400959-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市長区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成30年11月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接するクリニックでは内科的疾患の治療はもちろん、定期的に健康診断が行われており、健康管理には十分安心を提供出来ていると思う。また、母体が精神科の病院でもあり、認知症、精神疾患の治療にも万全の体制が出来ている。また、母体からの訪問診療・訪問看護とあり気軽に相談する事が出来る体制も整っている。
季節に合わせた行事、年1回の遠足、ボランティアによる踊りや歌と入居者様の楽しみ事を絶やさぬよう毎月支援をしている。近隣に同施設が3施設あり行事のたびに交流を図り、緊急時等の協力体制も出来ている。
よろこびでは、入居者様もスタッフも穏やかで、入居者様の笑顔が多くみられる様、日々努めています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営母体が医療機関であることで、医療面での柔軟な支援体制がつけられており、随時の受診支援も行いながら利用者のホームでの生活の継続につながっている。運営法人では、当ホームの近隣に複数の介護事業所を運営していることで、関連事業所でボランティアの方による行事が行われる際には、ホームからも利用者に参加する機会をつくっていることで、地域の方との交流と利用者の外出の機会にもつながっている。関連事業所とは、合同の職員会議や研修の取り組みが行われており、運営法人全体で職員の資質向上を目指す取り組みが行われている。定期的に行われている運営推進会議については、関連事業所とも連携しながら開催しており、出席者に運営法人全体の現状を知ってもらう取り組みが行われている他にも、様々なテーマを掲げながら勉強会の取り組みも行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	常に見れるよう玄関先、事務所内に掲示し、スタッフミーティング時には理念を踏まえた話し合いをしている。	運営法人の関連事業所との共通の理念に、ホーム名から取った独自の理念をつくっており、ホーム内への掲示が行われている。ホーム便りに職員が抱負を書く等、理念の実践につながるような取り組みも行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の行事(夏祭り・敬老会・地区防災避難訓練等)に入居者様と一緒に参加し、地域の一員として交流に努めている。	地域の方との情報交換等を行いながら、地域の行事への参加等の機会につなげている。また、ホームで中学生の職場体験の受け入れや、運営法人の関連事業所とも連携しながら、地域の集会場で相談会を開催する等、地域貢献にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	法人が代表で、地域の公団の集会場で、介護についての相談会や施設の紹介を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月に一回、町内会長・入居者様のご家族・いきいき支援センター職員等の協力で開催している。運営状況・行事の報告・勉強会等を行い、意見を頂いている。	会議は、関連事業所と連携しながら開催しており、各事業所の運営状況の報告が行われており、出席者に法人全体の現状を報告している。また、会議を通じて様々なテーマで勉強会を行っており、ホームへの理解を深めてもらう取り組みも行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	介護保険課の集団指導には必ず出席し、情報を得ている。必要に応じ、電話等で、指導を頂いている。	ホームには生活保護の方が生活しており、市の担当部署との情報交換等が行われている。運営法人の事務局を通じた情報交換等が行われており、市の研修会や講習会等への出席をはじめ、法人全体で連携する取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化検討委員会を設置し、3ヶ月に一度開催している。拘束についての具体例を掲示し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	身体拘束を行わない方針のもと、フロアーの出入り口は利用者が出入りができることで、職員間での見守りが行われている。関連事業所とも連携しながら、定期的な検討会議や職員研修の取り組みが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関する事例を掲示するとともに、日々の話し合いにて意識づけし防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	制度を活用する入居者様が増えて来ているが、職員の理解には繋がっておらず、学ぶ機会を作っていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約に関する一連の手続きは、十分に時間をかけ、利用者家族にしっかり説明し納得を頂いている。また、改定等が生じた場合は、書面をもって理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱の設置と共に面会時には必ず声をかけ、要望・意見があればすぐに対応し、運営に反映させている。	ホームで開催している行事の際には、家族にも案内を行い、交流の機会につなげている。家族からの要望等は、ホーム管理者の他にも運営法人の事務長による対応も行われている。また、年4回の共通のホーム便りと毎月の利用者毎の便りを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体会議、管理者会議、開催時に意見や提案を聞く機会を設けていると共に、スタッフミーティング、申し送り、日々の話し合いの中で反映している。	関連事業所との合同会議後に、ホーム内のユニット会議を行っており、職員からの意見等の把握に取り組んでいる。日常的にも職員間で情報交換を行う時間をつくりながら、職員からの意見をホームの運営に反映する取り組みが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	入居者様ごとの担当者、行事等の担当者を決め、各自が向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験・能力に応じた研修への参加。研修内容の資料の共有と全体会議で受講者の横展開を行い、実践に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	研修を通じて同業者と交流する機会を作っている。管理者・スタッフが他施設にボランティアに行っており交流を図ると共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前の面談にて、その人の思い家族の思いを聞き出し、不安なく安心を確保する為の関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス導入時はもちろんのこと、導入後も積極的に話しかけ、不安や要望に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族との面会時に、必要としている支援を見極め、対応するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その人のできる事を見極め、無理なく一緒に行い、暮らしを共にする者同士の信頼関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時はもちろん、毎月のたより、年4回の新聞にて、入居者様の状況を伝え、また、必要時にはご家族様に協力をお願いし、一方的な立場にならないよう、共に支援するよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会、外出と自由に出来るよう支援している。友人・知人の面会時も、また来て頂けるよう配慮している。	利用者の中には、入居前からの親しい関係の方との交流を継続している方が生活しており、馴染みの関係の継続にもつながっている。家族との外出の機会も得られており、喫茶や買い物等の他にも、時には自宅に戻り家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の関係を十分把握し、みんなで一緒に出来ることを見極め提供し、支え合えるような関係づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ご家族様に出会った時には声をかけ、近況等を聞くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話にて思いや意向を聞くように努めている。困難な場合は、行動や生活パターンにて把握に努めている。	職員間で担当制も活用しながら利用者を把握する取り組みを行っており、日常的な申し送りと合わせて、一人ひとりの意向の把握につなげている。また、毎月のカンファレンスの時間を設けており、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みが行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	アセスメントはもちろん、日々の会話にて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	記録・申し送り等にて、心身状態の把握に努めている。有する能力も日々観察し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ご本人・ご家族様の意向を念頭に、またその人にとっての今何が必要なのか、支援方法を話し合い、介護計画を作成している。	介護計画については、利用者の状況等にも対応しながら、3～6か月での見直しが行われている。また、日常的に職員間で介護計画の内容に合わせた記録を残しながら、毎月のチェックを行い、3か月でのモニタリングにつなげている。	介護計画の内容については、職員間での検討を深めながら、利用者の生活状況の全体を反映した内容につながることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	2or3段階評価で記録。普段と変わった様子は必ず記録し、情報の共有・実践し見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	状況、ニーズに応じ柔軟な支援をするよう、取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	毎年、地域の行事に参加させていただいている(お祭り、敬老会、地域防災訓練等)。また、ボランティア(フラダンス等)の方に来ていただき、暮らしを楽しむよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	内科は定期的(1/2W)に受診し、認知・精神疾患は(1/4W)受診し、心身の状態を確認している。	ホームの運営母体が医療機関でもある利点を活かしながら、医師による訪問診療やホーム職員による受診支援が行われている。利用者の中には専門医による支援も受けている。また、看護職員や訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期受診以外で、異常・問題等あれば確認しアドバイスや臨時受診の対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関との連携が確実にとれるよう、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですべてのことを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族様より、早い段階で意見を聞くよう努めている。	医療面での柔軟な支援を行いながら、身体状態が重い方についても、可能な限りホームでの生活が継続できるような体制がつけられている。職員研修の取り組みも行いながら、利用者や家族の意向等にも合わせた支援に取り組んでいる。	母体の医療機関の医師が変更になったことで、ホームへの支援についても新たな取り組みも考えられる。利用者、家族の意向に対応できるような継続的な体制づくりに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	全体会議で応急手当、初期対応の研修を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	日中、夜間想定と年に2回、防災訓練を行っている。近隣との協力体制もできている。	避難訓練については、ホーム単独で実施しているが、関連事業所と隣接している利点も活かしながら、関連の医療機関との避難訓練の実施が行われている。地域の方との協力関係の取り組みも行われている。また、ホーム内に備蓄品の確保が行われている。	ホーム内の水の備蓄が足りない状況でもあり、ホームでも増やす予定でもある。関連事業所との協力関係と合わせ、備蓄品の確保にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	運営理念を忘れず、声かけには充分注意し対応している。	ホームでは、職員の倫理綱領等を事務室内に掲示する等、職員が利用者の対応を考える機会につなげる取り組みが行われている。また、運営法人で職員の接遇に関する研修を実施しており、職員の振り返りや注意喚起にもつなげている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を聞くよう心がけている。入浴時の着替え選びはもちろん、いろんな場面で自己決定できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	出来る限り一人ひとりのペースに合わせた支援を行うよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2ヶ月に一度、訪問理美容があり、本人の希望に合わせた髪型にしている。外出時には、その人らしいおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの能力に合わせて、毎日、掃除・食事の片付をお願いしている。昼食作りでは、好きなメニューを取り入れ、野菜を切ったり盛り付けたりとスタッフと一緒にしている。	食事は、外部業者からの提供を受けているが、月に数回の間隔でホーム内で調理を行う機会をつくり、利用者も参加した取り組みが行われている。利用者の身体状態に合わせたミキサーやトロミ等も行われている。また、職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量を毎食毎記録している。個々に応じた食事形態の支援も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを行っている。週に一度、訪問歯科を利用し必要時には相談・指導をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人ひとりの排泄状況を把握して、声かけ・誘導・介助の支援を行っている。	利用者の状況等にも合わせた排泄記録を残し、利用者一人ひとりに対応した排泄支援に取り組んでいる。利用者の中には、オムツからパンツに移行した方もいる。また、医療面での連携や日常的な食事を通じた排泄の改善につなげる取り組みも行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便チェック表にて排便の確認を行い、食事・水分に気を付け、個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	時間、曜日は決まっているが、その日の体調・状況に合わせた対応をしている。	ホームでは月曜日から土曜日まで入浴の準備が行われており、利用者は週3回の入浴が行われている。入浴を拒む方にも声かけを検討しながら、定期的な入浴につなげている。また、身体状態に合わせた職員複数での入浴介助も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	朝の申し送り等にて、一人ひとりの睡眠状態を把握し、いつでも休息、安心して睡眠が取れる様、支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬情報にて服薬の把握に努めている。薬の変更があれば、申し送り・連絡ノート記入にて、誤薬・飲み忘れのないよう、チェックも二重にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人ひとりに合わせ、レク・買い物・散歩・手伝い・外食等、気分転換の支援を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している。	買い物、散歩とスタッフと出かけている。年に数回の外食と遠足等の支援も行っている。	ホームの近隣に公園があるので、利用者の日常的な散歩にもつながっている。関連事業所の行事に参加したり、喫茶や買い物等を通じた外出も行われている。また、職員間で外出先を検討しながら、季節に合わせた外出行事等が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を所持している入居者はおらず、家族の了承の元施設で管理している。おこづかい帳があり、月末には、本人、家族と確認を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	希望があればいつでも電話できるよう支援している。手紙もご本人に渡し読んで、聞いてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節に応じた壁面を入居者様と作ったり、心地よく過ごせるよう、共用・居室と光・温度等、配慮している。	ホームのリビングは、全体的に落ち着いたある雰囲気と広めの空間となっていることで、利用者が日中をゆったりと過ごすことができる生活環境となっている。また、季節感のある飾り付けや利用者と職員の作品等の掲示が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	多目的空間にて、入居者様同士。TVを観たり、会話を楽しんだりとしている。また、好きな場所で過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	好きな絵や写真を飾ったり、本を持参されたりと本人が心地よく過ごせるよう支援している。	居室には、利用者や家族の意向にも合わせた家具類をはじめ、様々な物の持ち込みが行われており、利用者に合わせて居室が行われている。また、利用者の中には、趣味の物を飾っている方や自身の作品を掲示している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレに貼り紙をしてわかりやすく、居室・テーブル席にはネームプレートを付け、安全に自立した生活が送れるよう支援している。		